

## 産業建設常任委員会会議録

- 1 開会日時 令和6年2月5日(月)午前10時0分
- 2 閉会日時 令和6年2月5日(月)午後0時3分
- 3 会議場所 熊山支所大会議室
- 4 出席委員  
9番 治徳 義明君      11番 金谷 文則君      13番 福木 京子君  
14番 佐藤 武文君
- 5 欠席委員  
7番 保田 守君
- 6 説明のために出席した者  
産業振興部長 是松 誠君      建設事業部長 高橋 渉君  
赤坂支所長 小坂 憲広君      熊山支所長 稲生真由美君  
吉井支所長 中務 浩行君      総合政策部参与兼  
建設事業部参与 岡本 和典君  
農林課長 岡田 浩司君      商工観光課長 大崎 文裕君  
地域整備推進室長 森本 祐司君      建設課長 福圓 章浩君  
上下水道課長 金島 正樹君      農林課参事兼  
地域整備推進室参事 三田 義雄君  
赤坂支所 産業建設課長 石井 徹君      熊山支所  
産業建設課長 砂子 武久君  
吉井支所 産業建設課長 谷 宣道君
- 7 事務局職員出席者  
議会事務局長 土井 常男君      副参事 野田 順子君
- 8 協議事項 1) 事業の進捗状況について  
2) その他

午前10時0分 開会

○委員長（金谷文則君） ただいまから産業建設常任委員会を開会いたします。

保田委員のほうご連絡がまだないんですが、遅参されるんだと思いますので、皆さんに御報告をさせていただきます。

本日は閉会中の委員会ですので、市長、副市長については出席を求めておりませんので、御了解をお願いいたします。

また、換気のため会議室の扉を開けたまま進めさせていただきますので、御協力をお願いいたします。

それでは、これから協議事項に入りたいと思います。

まず、協議事項1番目、事業の進捗状況についてお願いをいたします。

それから、説明のほうは産業振興部をやって、それから建設事業部ということで分けていったほうがスムーズかなと思いますので、今日はそうさせていただきます。

それでは、お願いします。

○農林課長（岡田浩司君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 岡田農林課長。

○農林課長（岡田浩司君） それでは、農林課所管部分について御説明いたします。

資料2ページを御覧ください。

1、事業の進捗状況について、(1)事業の進捗状況に係る報告についてでございます。

資料4ページを御覧ください。

農業振興費では、是里ワイン醸造場の改修が令和6年1月18日に完了しております。

続きまして、その下です。林業総務費では、森林経営管理支援業務の進捗率が75%、その下の森林経営管理事業支援業務の進捗率が50%となっており、年度末の完了に向けて進めております。

続きまして、(2)赤磐市次世代農業技術集積センター整備事業について御説明いたします。

本日は就農等支援センター事業と次世代農業技術集積センターとの関係及び今後の事業の進め方について御説明させていただきます。

資料6ページを御覧ください。

まず、就農等支援センターでは、(1)に示される想定される11項目の業務の一部を進めている状況です。現在事務局は農林課内のほうにございますが、今後法人格を持った運営組織を立ち上げ、次世代農業技術集積センターと協力しながら、11項目の業務に取り組みたいと考えております。

次に、次世代農業技術集積センターの今後の進め方でございますが、相手方と事業契約及び借地契約を締結し、次世代農業技術集積センターの早期稼働を目指します。

次世代農業技術集積センターでは、事業契約者が市から借地契約する事業用地に施設を建設

し、経営を開始することになります。事業契約者においては、高品質、安定的な野菜の出荷により、赤磐安全ブランドを確立させ、農業を魅力あるものにし、様々な方面から赤磐市の農業振興に寄与していただく計画としております。

続きまして、資料7ページを御覧ください。

次世代農業技術集積センターの現在の状況です。

相手方との協議により事業方針が決定し、設置する施設の規模及び整備計画が示されました。主に取り扱う農作物については、レタス、キャベツ、サツマイモとなっております。農作物の栽培地については、本年度奥吉原、河田原で作付面積が4ヘクタール、令和6年度においては作付面積8ヘクタールを確保しており、今後は市内において約50ヘクタールまで拡大する計画と聞いております。

施設につきましては、現在関係機関との調整を図りつつ設計を進めているところであり、令和6年度中に着手する予定であると聞いております。各施設の配置計画につきましては、8ページに図面のほうを添付させていただいておりますので、御確認ください。

農林課からは以上でございます。

○委員長（金谷文則君） 続いてお願いします。

○商工観光課長（大崎文裕君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 大崎商工観光課長。

○商工観光課長（大崎文裕君） それでは、事業の進捗につきまして、商工観光課から御説明いたします。

常任委員会資料2ページをお願いいたします。

1、事業の進捗状況について、(1)事業の進捗状況に係る報告につきましては、資料のほうの5ページをお願いします。

事業費1件250万円以上を一覧表にしておりますので、御確認いただけたらと思います。

上段、吉井竜天オートキャンプ場温水ボイラー交換工事につきましては、2月1日現在で進捗率80%でございます。

また、下段の赤磐市サイクリングルートPR事業につきましては、9月15日から12月17日まで実施をいたしました。400名の参加がございまして、前年と比べ約30%の増でございました。

続きまして、2ページのほう戻っていただきまして、(3)あかいわ合同企業勉強会につきましては、例年3月中旬に高校1、2年生を対象に実施している事業でございます。コロナ禍を経まして、令和3年度からリモートで再開し、本年度は対面方式での開催を予定しております。

現在募集中ではございますが、参加高校につきましては学校単位では瀬戸南高校が、企業側では14社が参加意向を示しておられます。勉強会を通じて就職に結びついたとして、高校や企

業から今後も継続してほしいとの御要望も多くあり、参加企業に採用実績ができるよう事業継続していきたいというふうに考えております。

資料の9ページに、校正中ではございますが募集のチラシを、次の資料10ページには2月1日現在の参加企業の一覧表を添付しておりますので、御確認いただけたらと思います。

商工観光課からは以上です。

○委員長（金谷文則君） ありがとうございます。

以上で産業振興部の説明が終わりました。

ただいまの説明について質疑はございませんか。

○委員（治徳義明君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 治徳委員。

○委員（治徳義明君） 就農等支援センター事業をただいま御説明いただいたところでありますけれども、11種類書かれてますけれども、確認なんですけど、スマート農業、例えば最近ならドローンを活用した事業なんかたくさんやられてると思うんですけども、現実的に農家の方なんかもやられてると思うんですけども、そういった分野というのはどこに入るんですか。

○委員長（金谷文則君） 答弁を求めます。

○農林課長（岡田浩司君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 岡田農林課長。

○農林課長（岡田浩司君） 次世代農業、スマート農業の質問だと思っております。

ドローンを活用したものとかそういったものは入っていないんですけども、今こちらに書かせていただいている次世代先進農業というのは、今事業契約をしようとしている業者さん、そちらのほうが大手企業、それから大手食品メーカーとかそういったものと提携をしておりますので、そちらのほうが最先端といいますか先進の機具を使ったものを使用していこうと思っております。この中では、真空冷却装置でありますとかキュアリングでありますとか、そういったものがそちらに当てはまるものかなと思っております。

以上です。

○委員長（金谷文則君） よろしいか。

○委員（治徳義明君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 治徳委員。

○委員（治徳義明君） ありがとうございます。ぜひスマート農業をしっかりと。何か見たら最近でも一般農家の方が軽トラにドローンを積んで一生懸命やられているというようなことがありますし、ぜひ市のほうが先進的にスマートのほうを活用していただきたいと思うんですけども、そのほかに1点、果樹のオーナー制度を実施するんだというふうなことを書かれていますが、具体的に御説明をお願いします。

○委員長（金谷文則君） 答弁を求めます。

○農林課長（岡田浩司君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 岡田農林課長。

○農林課長（岡田浩司君） こちら想定される業務内容の中の市民農園の中にあります果樹のオーナー制度を実施するということであると思いますが、こちらのほうはまだ具体的な計画とはなっておりません。今後こういうことがやれるであろうということで記載させていただいております。

以上です。

○委員長（金谷文則君） よろしいか。

○産業振興部長（是松 誠君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 是松産業振興部長。

○産業振興部長（是松 誠君） 少し補足をさせてください。

○委員長（金谷文則君） はい、お願いします。

○産業振興部長（是松 誠君） 先ほど1つ前の御質問で、ドローンなどのスマート農業のこともございました。そちらにつきましても、この中には具体的には書いておりませんが、それぞれの施策の中で必要に応じて農家と共同でそういう事業の導入とかということは進めてまいりたいと思っております。

それから、先ほどのオーナー制度ですが、これもこの11項目の業務の中で順次できるものから取り組んでいくと。そういう中でこの組織が農地を保有できるようになれば、そういうところで未利用、未活用の農地を活用して、そこでオーナー制度、市民農園に向けて活用していくというようなことの計画でございます。

ですから、現在これはたちまち取り組めるというものではございませんが、将来的にそういうものというのを取り組んでまいろうというふうに考えております。

以上です。

○委員長（金谷文則君） よろしいでしょうか。

治徳委員。

○委員（治徳義明君） ありがとうございます。

スマート農業の補足説明があったんでお願いしときますけども、ちょっと具体的な話なので、総合的とか何とか的にやりますみたいなお話なんですけど、ぜひ私も委員長なんかと何度も農業の関係のイベントみたいなどころへ参加をさせていただいたんですけども、そういったところでもスマート農法もメインなんです。もうスマート農法のいろんな情報が発信をされているので、ぜひそういうところにも参加させていただいて勉強していただきたいと思います。

以上、一応要望ということで。

○委員長（金谷文則君） よろしいですか。

他にございませんでしょうか。

○委員（佐藤武文君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 佐藤委員。

○委員（佐藤武文君） 就農等支援センターの関係について、取扱い農作物の名称がレタス、キャベツ、サツマイモ等と等が入ってますね。レタス、キャベツについては常に赤磐市内で生産されておられる農家もおられますわね。サツマイモは初めて出てきた作物なんですけど、その等と書いておられるのはそのほかに何かあるのかということについて御説明いただきたいということと、もう一つは農作物の栽培地、赤磐市奥吉原や河田原ほか、ほかというのはどこが対象になっておられるかということについて説明をいただきたいと思います。

○委員長（金谷文則君） 答弁を求めます。

○農林課長（岡田浩司君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 岡田農林課長。

○農林課長（岡田浩司君） 取り扱う農作物の名称の等という部分と農作物の栽培地のほかというところの説明をさせていただきます。

取り扱う農作物の名称の等というのは、今現在奥吉原のハウスの中で依頼されたものがありまして、そこがパプリカであるとかそういった品種改良といいますかそういった特別なものを行っているものであります。こちらのほうが成功していけばどんどん広げていくという話で、特に品種にはこだわらずに生産を考えているというのは聞いております。

それから、農作物の栽培地につきましては、今現在交渉をずっと市内のほうをしております、今聞いているのは上市から津崎周り、それから熊山地域のほうがずっと走り回って少しずつ話がついているというのを聞いております。

以上です。

○委員長（金谷文則君） 佐藤委員。

○委員（佐藤武文君） 就農等支援センターを誘致するに当たって、赤磐市の農業がどのように変わっていくのかということに非常に興味を持っておりまして、それから変わっていったらもらわなければ何の意味もないと思うんです。だから、そういうことの中で、取り扱う農作物がレタス、キャベツというのは既にもう生産されておられる品種なんです。

そのほかに赤磐市のこれから先の将来の農業を考えたときに、稲作だけでいいのか。稲作からあるいはそういうようなことでこれから赤磐市の特産物としてそういうふうな野菜を主に作っていただけるような農家が増えていくかどうか。その辺を増やすためにこういうふうな就農等支援センターが来て指導してくださるという形になるんじゃないかと思うんですけど、そういう期待をどうも持てるような状況に見えないんです。

それから、奥吉原については既にもうしておられるところで、今言われたように上市、津崎、そういうふうなところに話をさせていただいているということについては非常にいいことなんですけど、見通しが恐らくまだ全然立っていないような状況で、就農等支援センターの

そういうような業者を迎え入れるような形になっておるんじゃないかというふうに思うんですけど、どうも今言うそういうふうな業者が来られても、赤磐市の農業がどのように変わっていくかという期待とそういうような展望がなかなか農家の方に伝わってないというような状況ではないかというふうに思えるんですけど、その辺の今後の展開について何かあったら説明いただきたいと思います。

○委員長（金谷文則君） 答弁を求めます。

○農林課長（岡田浩司君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 岡田農林課長。

○農林課長（岡田浩司君） 今後の展望なのですが、今現在、就農等支援センターの次世代農業技術集積センターでは野菜のほうを取り扱っていくんですが、今既にレタス、キャベツ等についてはほかの地域でやっているといったことですが、これから事業契約をしようとしているところにつきましては、大手食品メーカーと提携しており契約栽培をしております。そちらのほうで、今現在、4年間ずっと最優秀の表彰を受けておりまして、もうそこが提出する野菜については保証を得ていると。

これから新規農業者とといいますか、赤磐市で農業のほうを発展するには新しい農業者が必要になってくるとは思いますけども、その農業者の研修のほうもそちらでしていく予定としております。その新規就農者に何が必要かといった場合に、やっぱり売り先、それから技術といったものが必要になってくるとは思います。そちらのほうをその研修、技術のほうを継承して行って、新しい次代を担う農業者を育てていくということが必要だと思っております。

以上です。

○委員長（金谷文則君） 佐藤委員。

○委員（佐藤武文君） 今話を聞かせていただいても、なかなか執行部においては新しい方策というのが描かれてないのではないかなというふうに私は思うんです。といいますのが、今農業をやっておられる方については高齢者の方が非常に多い。高齢者の方は、今まで水稻を長年耕作し、生産してきておられるんです。水稻を生産することが一番今言う作業的には楽なんです。野菜をつくるのが作業的に楽なんかどうかということがまだまだ見えてきていない。

そういうことの中で、水稻をしておられる高齢者の方がなかなかそれに移行されるというのは難しいかなと。今言われたように新規就農者について、どれだけどういうふうな形になるかということがまだ全然見えてきてないような状況の中で、そういうことに新規就農者がすぐそういうふうな形で生まれてくるというような状況には私はならないのではないかなと。

要するに、今水稻をしておられる高齢者の方々に意識改革をしていただくということが非常に大事ではないかなというふうに思うんですけど、そのことについてもう少し具体的にお話があればお聞かせいただきたいというふうに思います。

○委員長（金谷文則君） 答弁を求めます。

○産業振興部長（是松 誠君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 是松産業振興部長。

○産業振興部長（是松 誠君） 先ほど農林課長が説明させていただいた内容なんですけど、まず就農支援センターでは、市の農業振興計画に基づきまして桃、ブドウ、野菜、米、これを中心に振興していくというふうに考えております。その中でも、この津崎の地では桃とかブドウ、米というものはなかなかそこでの生産振興につながるような何か研修とかというものは難しいものがございます。そちらは市内各所で研修など生産振興につながる施策を打ってまいります。

それから、米につきましては、先ほど佐藤委員の御質問のとおり一番普及しておりますし、作りやすいと言ったら語弊があるかもしれませんが、生産しやすいものだと思います。こちらについても現在圃場整備をはじめ様々な施策をしておりますが、米価がなかなか安定しないというところで、農家の方が苦しんでおられます。

そういう中でこの津崎の就農支援センターでは、先ほど申しました4つの品目の中の野菜に注力しまして、今回出ておりますレタス、キャベツ、サツマイモ等ということで、その品種には限定なく、これを中心に米農家で離農される方がありますとか、また新しく就農される方の野菜の生産に関わる研修など、この就農支援センター、集積センターで行っていききたいというふうに考えております。

そういう中で、野菜の生産から出荷までの工程の中で、市内の農家はその全部をされる場合もあると思います。また、そのどこかの一部を農家が関わってされる場合、いろんな選択肢があると思いますので、農家の方々の選択肢を広げるという意味で、この野菜について今後この地で生産振興、研修など図っていききたいというふうに考えております。

以上です。

○委員長（金谷文則君） 佐藤委員、よろしいでしょうか。

他にございませんでしょうか。

○副委員長（福木京子君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 福木副委員長。

○副委員長（福木京子君） これが想定される業務内容が11項目で、一応ざっと読んだんですけど、もう少し1から11までの今の現状と今後どのようにしていこうかとしてるんかというぐらゐの説明を、もう少し詳しい説明がこの11の中では要るんじゃないかなと思うんです。そうせんと全体が見えてこない。

今、私もこの産建に関わって短いんですけど、やっぱり桃、ぶどうの5ヘクタールの是里とか、斗有とか、そういうふうなのを手をつけたりしているんですけど、あと今回支援センターの中でも野菜の農家だけの1社が出てきてるんですけど、今後どういうふうな構想で、ほかの事

業者が入ってくる余地とか、その辺のこの計画はどう考えてるのかなど。野菜に相当力を入れるということですから、今でももう市内を走るとキャベツやいろんな分があちこちに結構あるんですけども、そしたらやっぱり田んぼが作ってないところにそういうものがだあっとできてくるようなことを想定するんですけど、その辺の土地の利用や、そういう景観や、そういうふうな総合的なことも考えてやろうとしているのか。何かこの1社だけがここへ入ってきて、力入れていくんだというそれだけで、本当にそのまちづくり、農業の振興、それが本当に前に行くのかどうか。不安なんですけど、もう少し納得できるような説明をしていただきたいなと思うんです。

○委員長（金谷文則君） 答弁を求めます。

○農林課長（岡田浩司君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 岡田農林課長。

○農林課長（岡田浩司君） 御説明をさせていただきます。

就農等支援センター事業で想定される業務内容、こちらの11項目につきましては、野菜だけに限らず圃場の荒廃防止から就農研修であるとかいろんなもの、こちらはもう野菜だけに限らず全てのものについての項目になっております。次世代農業技術集積センターにつきましては、野菜のほうに特化した技術のほうを進めていくといったことになっております。

今後、想定される業務内容につきましては随時見直していく必要はあるかと思っておりますが、今現在考えておる事業につきましてはそういった内容になっております。

以上です。

○副委員長（福木京子君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 福木副委員長。

○副委員長（福木京子君） そのぐらいだけではちょっとどうかなど。市民農園なんかも具体的にはどういうふうなことをしようとしているのか。それから、あと新規の農業者がこれまでも何人もおられたと思います。そういう人たちが本当に成功して、市がしっかり支援して成功していつているんかどうかな。その辺の実態。もっと本気で支援しないと、あれは3年でしたか、国からの補助が出るんが。そのぐらいで、あともうちょっと長期的に市が本気で支援しないと、新規の農業者の人が途中でやめていくというようなことも結構あると聞いてるんです。だから、一つ一つが大切だと思いますし。

それから、あともう一方では、学校給食なんかには有機野菜、そういうものを取り入れてほしいと。それではある程度契約的な栽培をしないといけないし、そういうふうな農業の在り方、その辺の横の連携というんか、その辺も考えていかないといけないんじゃないかなと思うんですが、その辺はどんなでしょうか。

○委員長（金谷文則君） 答弁を求めます。

○農林課長（岡田浩司君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 岡田農林課長。

○農林課長（岡田浩司君） 今、御説明いただいた給食であるとかそういったものと関連するものにつきましても、今後詰めていきたいなと考えております。

今この想定される業務内容につきましても、現在全部確定しているものではなくて、今後検討が必要になってくるであろうといったものを上げております。実際に、今農林課のほうでしている事務のほうも一部ございますが、今後詰めていく事業のほうが多いといったのが現状となっております。

以上です。

○委員長（金谷文則君） よろしいでしょうか。

ほかに。

○委員（治徳義明君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 治徳委員。

○委員（治徳義明君） もう一点確認をさせてください。

今の新拠点、道の駅の計画があって農作物なんかも販売するんだろうと思います。その中で、僕何度も言うんですけども、今赤磐市、桃やぶどうが特出した産地ですけれども、7月、8月、9月だけ販売して、あとは閑散としとるといような状況は非常に厳しいという中で、今回の就農支援センター等の取組は非常に重要なんだろうと私は思っています。

それで、前も一般質問で取り上げさせていただいたんですけども、ブランド化をやっていきたいと思いますという提案に対して、ここにも書いてますけれども、安定出荷と品質向上、安全ブランドをつくるのがブランド化なんだと、一般質問でもそういう御説明をされました。ここにも書いてますけれども、ブランド化というのは、安定供給、安全な食品を作るだけがブランド化なんでしょうか。どういうふうにブランド化を考えられてるか御説明をお願いします。

○委員長（金谷文則君） 答弁を求めます。

○産業振興部長（是松 誠君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 是松産業振興部長。

○産業振興部長（是松 誠君） 一般質問でもいただきました。ブランド化、一般的に考えれば、ぶどうとか桃の赤磐特産の名称ですとか特定の品種、こういうものを広めていくということなんですけど、まずその手前で、やはり安定的に、継続的によい物を出荷しないとブランド化にはつながらないというふうに考えております。なので、同じ答弁になりますけど、まず一番にそこを大切にこれからつくり上げていこうというふうに考えております。

○委員長（金谷文則君） よろしいでしょうか。

他はいかがですか。私が発言してもいいですか。

○副委員長（福木京子君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 福木副委員長。

○副委員長（福木京子君） 今回、こういう野菜でやろうとしてるんですけど、今まちづくりで、こういう業者と提携して野菜でまちづくりをしているところというのがこの岡山県かその周辺ではありますか。ちょっと一歩進んでるような。

○委員長（金谷文則君） 答弁を求めます。

野菜でまちづくりをしているところがあったら教えてくださいということですので。いかがでしょうか。

○産業振興部長（是松 誠君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 是松産業振興部長。

○産業振興部長（是松 誠君） まちづくりということで、特別に何かこう取り組んでるということは情報として我々持っておりませんが、ここに上げさせてもらってるキャベツなんかは、特に今近くで言えば瀬戸内市であるとか、そういうところで非常に多く取り組んでおられます。それがまちづくりというところに結びつけておられるかどうかというのは把握しておりません。

○委員長（金谷文則君） よろしいでしょうか。

じゃあ、私も発言したいので、代わっていただけますか。

〔委員長交代〕

○委員長（金谷文則君） 副委員長。

○副委員長（福木京子君） 金谷委員長。

○委員長（金谷文則君） 私のほうからお聞きをしたいというのが、この就農支援センター事業というのが1つあって、その中に今回の農業次世代の技術の集積センターというものが含まれてきとるわけなんですけども、この事業をするのはこれはこれでいいと思うんですけども、赤磐市の農業がどういう問題があって、どういう問題があるからそれを変えていくためにはこういう施策が必要で、それが今の現状としてはこういうところまで充足させられて、こういうふうに今やっていくんですというきちとしたフローの中での、数字含めて事業を捉えていかなきゃいけないと思うんです。

ここへ出てるのはあまりにも抽象的過ぎて、当初の赤磐市の農業の関係で変わってはきましたけど、今回の就農支援センターという当初のあって、ここの場所に今の果樹なんかも最初は振興部のほうからここに桃をやったりするんだということをはっきり言ってスタートしてきているわけで、今説明の中では、津崎の地ではこういうことではできないから、重量野菜のキャベツやレタスのようなものをするというのをさらっと説明の中でされましたけど、これは僕はおかしいと思います。

当初の計画、何のためにあの土地を用意したかというのと、そういうものをここでするんだからといってあそこに農業支援センターも3ヘクタールだったかを用意したわけで、そんなに簡単に赤磐市の根幹である農業を変えていく。こんなでたらめな農業行政は僕は駄目だと思います。

す。

この今の想定される事業内容という支援センターの中で、あまりにもこれは曖昧で、1番から全部言ったらもう時間がないので、これを多分この間議員研修の中で研修の先生が言われまじったけど、しっかり議論をしないとイケない、いろんな議案を出したりされる前に、責任の委員会として議論をしていかなきゃいけないということをしっかり言われておられるんで、ここでしっかりしとかなないと、お金を使うということに対してあまりにも私たちも、執行部が出てきたところを追従するような形できたことについてはやっぱり反省しなきゃいけないなと思って、ちょっと一言言わせてもらうんですけど、まず研修圃場管理というのが1番のところであって、未利用の圃場を活用して云々かんぬんという。未利用の圃場とはじゃあいかなるところでどれだけの面積があって、どういうふうを活用されてないかっていう説明からスタートしなきゃいけないと思うんです。

私たちも聞いてこなくてこのまま放置してるのも大きな責任だとは思いますが、もう一遍ここに振り返ってスタートしていかないと、まず何が赤磐市の農業で欠落してるから、そこを埋め立てていくんだ、それはどれだけにするんだっていうことをしっかり明確に目標設定をして、それで今のこの事業。この間、農業支援センターの跡地のところをこの次世代のキャベツを使う青空のところでやりますということには決まったわけですから、その事業は進めていかなきゃいけないんですが、先ほど佐藤委員からも話がありましたけど、地元でキャベツを作ってもらえる農家の方もいらっしゃる。その農家の方との競合をどう考えるのかとか、それからその重量野菜を作るということは、先ほどくしくも言われましたけど、お年寄りの方に今からというのはもう無理なので、新しい新規就農者か若い方たちにしていただかないとこの作業能力的には大変難しいことだと思います。

転換していくためには、水稻が反収幾らであって、実質所得が幾らになるものが、このキャベツ、レタスを作っていくことによって反収がこういうふうになって、就農の所得がこういうふうになっていくと。そういう目標を赤磐市の農業として設定をして、それに沿っていくためには、この青空の会社が来なければいけないんだと。これは一企業の、産業振興部の中で一つ言えば企業誘致と一緒に思うんです。この土地を利用して企業誘致をしてきたという、ただ一つ企業が入ってきたような形だと思います。

その中で、野菜の勉強をしていく、その他、先ほど課長が苦しい答弁の中で出荷先が大手のところだからそこでいろんなこと云々かんぬんと言われましたけど、そんなばかな話はありません。受け取り側はいいところを選んで、購買するほうはいいものをお願いをして、そこに投資をしていくということはよっぽどのがない限りはありません。選んで、安くていいものを購入して消費者に提供するというのが企業です。そんなばかな話はありませんから、もう一遍よく勉強しなきゃいけないと思いますし、スマート農業っていうふうには治徳委員が言われたことに対しての答弁が、全くスマート農業でも何でもありません。スマート農業のスマートと

いう意味はどういう意味かっていうことは十分御承知だと思います。そういうところがどこにもかけらもありません。

前々から委員会の中でも新しい農業をとということで、今のスマート農業のような話、それからドローンを使ってのこれは防除だとかというようなこと。そのために今のドローンを使う。それから、鳥獣被害対策用に使うとかというような、それから生産を上げるために、そこで作物の生育状況を把握して、それをAIで分析して栽培をしていくというところに使う。そういうことはもうどなたも知っておられることです。そういうことの説明ができなくて、赤磐市の農業をどうのっていうところまでいかないの、今私はここに上げてこられてることはもう一遍足踏みをして、本当に必要なことをやっていかないと、これに予算づけをしていくというようなことにはならないと私は、今の大変厳しい言い方かもしれないけど、本当に赤磐の農業ということを考えた中ではいけないと思いますが、説明ができますか。私がお聞きした今のことについて。

多分今すぐにはできないっておっしゃられるんじゃないかなとは思っているので、一遍これ将来の赤磐市の農家のために、それから赤磐市の市民のためにということ考えたら、このことについてしっかり産業振興部とうちの委員会のメンバーの人たちと一緒に、しっかり議論して詰めて、それを予算化していくとか具現化していくというような格好にさせていただかないといけないのかなと。今日この委員会の中で今私が聞いたようなことを一々答弁をいただいていっても、多分納得いく答弁は返ってこないんじゃないかなと思います。

答えられるんなら答えていただいたら結構ですけど、できたら次のときにしっかりやりたいなと思いますが、いかがでしょうか。

○副委員長（福木京子君） 答弁をお願いしたいと思います。

○産業振興部長（是松 誠君） 副委員長。

○副委員長（福木京子君） 是松産業振興部長。

○産業振興部長（是松 誠君） 様々な御質問、御意見いただきました。そのあたり先ほどの私の答弁の中で説明が不適切だったかもしれません。津崎の地で桃、ブドウはしないというような発言だったかもしれませんが、これは地理的条件上できないということで、市内全域、適材適所でそれぞれの取組をするというふうに考えております。

また、一番委員長の御指摘のところだと思います。農家の方にどういうメリットがあって、どれだけ所得が上がるのかということだと思います。御指摘のとおり、そこらの目標数値は今持ち合わせておりませんが、必ずそうなるであろうという想定の下に今進めております。

本日の委員会では資料、それから時間も限られたものがございますので、なかなか説明し尽くせてないところもございます。御指摘のとおりさらに細かく説明なり協議を進めていかないといけないと思っておりますので、また時間を取ってさせていただきたいというふうに思います。

○委員長（金谷文則君） 副委員長。

○副委員長（福木京子君） 金谷委員長。

○委員長（金谷文則君） ありがとうございます。今ここで多分無理だと思うので、ぜひ今私がお願したようなことも含めて、それ以外、きちっと丁寧な説明をしていただきたいと思います。これはすごく重要なことだと思います。それはお願いをします。

それから次に、その下の運営組織のところ、前に1回触れたことがあるんですけども、この組織表があって、評議員会だとか事務局だとか理事会だとかっていうことがあるんですけど、この中に既にこういうことまでできてまだ計画中だなんていうことは言われたいようお願いをしたいんですが、どういう人たちが入ってくるのか。これがすごく大きいと思うんです。受益者の方も当然必要です。それから、行政の方も要るでしょう。知識者も要るでしょう。それから、当然議会としてこの委員会の中から、事業をしていくに当たっては当然そういう人たちも参加しなきゃ前に進まない。そういうふうなことに私は思うんですが、この辺の組織の中にどういう人たちが入って、どれぐらいの人数でいつこれを、農業就農支援センター事業を確立していくのか。これをお答えいただきたいと思います。

○副委員長（福木京子君） どなたが答えられますか。

○産業振興部長（是松 誠君） 委員長。

○副委員長（福木京子君） 是松産業振興部長。

○産業振興部長（是松 誠君） 組織につきましては、以前より必要性を説明させていただいたところでございます。この就農支援センター事業の最初のときから、公社の設立を目指すということで説明をさせていただいております。なかなかその設立した公社で何をやるか、どういう施策が要るかということが決まらないままきておりましたので、その中身を先に詰めるということで、先ほど説明させていただいた就農支援センター、あるいは技術集積センターというところにたどり着いております。

本来なら組織が先にできれば非常に物事が分かりやすいところではあったんですが、組織はこれからということになっております。御質問の評議員、この中には農業関係者、農業法人の代表ですとか認定農業者、普及センターあるいは市、農業委員など、また大学の関係者などを想定しております。また、理事の中には、JA、それからこちらも赤磐市、農地中間管理機構、こういうあたりを想定しております。

事務局には、そういう中から、今想定しておりますのは、赤磐市、農業関係者の中から事務局の職員を出すというふうを考えております。職員数につきましては、まだその規模が確定しておりませんので、おのおの3名程度なのかなというところで考えております。これからそこは詰めていきたいと考えています。

以上です。

○委員長（金谷文則君） 副委員長。

○副委員長（福木京子君） 金谷委員長。

○委員長（金谷文則君） それは前回も同じようなことのお答えだったと思うんです。あれから日にちもたってるし、それから今私がると話をしたんですが、赤磐市の基幹産業ナンバーワンが農業だと言われてる中で、これをこれから考えていく。その中の一つで、先に次世代の云々かんぬんのセンターをつくっていきって、そこにもお金を出していく。では、それを誰がコントロールするかは後づけしますなんていうことをやるようでは私は駄目だと思います。

こうやって赤磐市の農業をどうやってやるんかという、これが中枢の一番基本になる組織で、そこの組織の考え方によって赤磐市の農業をどうやって広めていくかっていうことをやらないといけない。この重要なところができてなくて、今の担当部長も課長も、それはほかの仕事もようけあって、その中でこのことを詳しくやれなんてのはできないでしょう。できないと思います。

早くこれを切り離して、切り離すなら、農業支援センターでもつくってやるんなら、赤磐市の農業をちゃんと担って責任を持ってやれるだけの組織をつくって、そこが考えていかないと、そこに予算をつけてやっていかないと、それはできませんわ。これ変えたほうがいい。そういうことを次回しっかり考えていただいて。

これはやめたほうがいいと思いますよ、今は。そうしないと、そこにお金を使って、市民の税金を使ってやるなんてのは大変申し訳ない話で、どれだけの受益者があって、どれだけの売上げをして、どれだけの効果をもたらすんかということが明確に示されないのに、そこにお金を使うということはやめましょう。

2月2日にいい勉強会をして、私はよりこの意見を強く言わせていただくというふうに決意して今日はここに来てるんで、いつもと違って少しきついことを言ってますけども、はい、出ましたからそのままオーケーですっていう追従はやっぱりやめなきゃいけないなど。だから、議員も一緒になってその中で考えていく、相談をするということも大変必要だということも講師の先生が言われたので、私もそのとおりだと思うので、あえて今中身について、こういうふうにやったらどうでしょうかということをお話しておりますので、ぜひ協力を求めています、議員の力、大したことはないと思われてるかもしれませんが、こうやって委員会をやっておりますので、それぞれの委員の皆さんの知恵を借りながら、それから市民の声を聞きながらやっていただきたいと思います。

これは次回で結構ですので、しっかりこのことについて議論させていただきたいと思います。それがよろしいかどうか確認をお願いします。

○副委員長（福木京子君） 答弁をお願いします。

是松部長。

○産業振興部長（是松 誠君） この事業、業務内容、それから組織の形につきましても、さらに議論を深める必要があるというふうには考えております。今後ともよろしくお願いま

す。

○副委員長（福木京子君） よろしいですか。

○委員長（金谷文則君） はい、ありがとうございます。

○副委員長（福木京子君） そうしたら、委員長を交代いたします。

〔委員長交代〕

○委員長（金谷文則君） すいません、ちょっときついことを言いましたけど、やっぱり大事なことでよろしくお願いをしたいと思います。

それで、いろいろそのときにいろんな計画図、配置図等出てきた集積センター、その辺についても議論をさせていただけたらなと思いますので、よろしくお願ひしたい。

産業振興部の関係で質疑はございませんでしょうか。

○副委員長（福木京子君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 福木副委員長。

○副委員長（福木京子君） 今組織の話が出たんで、これの関係の審議会があると思うんです。これまでも農業問題はそこで議論もして、いろいろ進んできていると思うんですが、議員も誰か出られてると思うんですけど、その辺の中ではこういう話は議論をされてきているんでしょうか。その確認だけお願ひしたいと思います。

○委員長（金谷文則君） 答弁を求めます。

○産業振興部長（是松 誠君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 是松産業振興部長。

○産業振興部長（是松 誠君） 審議会との御質問なんですが、その組織が経営生産会議のことではないかというふうに私は聞き取ったんですが、経営生産会議ということであれば、近年その生産会議の開催が様々な事情からできておりません。以前はそういう中で市の大きな農業施策の方針ですとかというものを協議させていただいておりました。今申しましたように、現実にはそれが近年できておりませんので、そういうところでの協議も必要なのかなというふうに今受け止めさせていただいております。

以上です。

○委員長（金谷文則君） よろしいでしょうか。

他にございませんでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（金谷文則君） じゃあ、産業振興部のほうはそれで質疑を終了としたいと思います。

それでは、続いて建設事業部の説明をお願いいたします。

○建設課長（福圓章浩君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 福圓建設課長。

○建設課長（福圓章浩君） それでは、建設事業部から説明をさせていただきます。

資料の24ページをお願いします。

それでは、24ページ、1、事業の進捗状況について、建設課から説明させていただきます。

(1) 事業の進捗状況に係る報告について、資料26ページから29ページをお願いいたします。

26ページには、令和4年度から令和5年度に繰越した主要事業となっておりますが、全ての工事が完了しております。

続きまして、27ページから29ページに令和5年度における250万円以上の主要事業を記載しております。

29ページの2段目の表の1番、大池市営住宅解体工事につきましては、退去の手続が完了したことによりまして、昨年末業者決定、年明けに契約が締結できております。今後は、年度内完了に向けて厳重な進行管理を行ってまいります。

以上で建設課の説明とさせていただきます。

○委員長（金谷文則君） 続いてをお願いします。

○上下水道課長（金島正樹君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 金島上下水道課長。

○上下水道課長（金島正樹君） 続きまして、上下水道課から進捗状況について御説明いたします。

資料30ページをお願いいたします。

こちらは令和4年度から5年度へ繰越しをした事業の進捗状況でございます。上段が水道事業、下段が下水道事業です。

繰越し事業につきましては、尾谷地区を残しまして全て完了しており、尾谷地区についても2月末の完了に向けて、現在進めておるところでございます。

続きまして、31ページをお願いいたします。

こちらが令和5年度の主要事業の一覧でございます。上段が水道事業、下段が下水道事業でございます。

水道事業、下水道事業ともに未完成工事につきましては早期完了を目指して事業の進捗を図っているところですが、一部については工事間の調整や、未発注のものにつきましては適正工期の確保などにより繰越しを予定しております。

上下水道課からは以上です。

○委員長（金谷文則君） 続いてをお願いします。

○地域整備推進室長（森本祐司君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 森本地域整備推進室長。

○地域整備推進室長（森本祐司君） 続きまして、地域整備推進室より事業の進捗状況に係る報告についてでございます。

資料のほうは26ページをお願いいたします。

令和4年度から令和5年度に繰り越した事業で、一番下の表の番号2と3が該当の業務でございます。全て完了しております。

次に、29ページをお願いいたします。

こちらは令和5年度における主要事業を記載しております。上段の表の番号2が該当の業務でございます。年度内の完了に向けて事業の進捗を図ってまいります。

説明は以上でございます。

○委員長（金谷文則君） ありがとうございます。

○上下水道課長（金島正樹君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 金島上下水道課長。

○上下水道課長（金島正樹君） 続きまして、資料24ページに戻っていきまして、(2)赤磐市上下水道事業審議会について、資料32ページから36ページをお願いいたします。

昨年10月から、審議会において水道料金の改定について審議をしていただき、先日、審議会より答申をいただきました。内容について簡単に説明をさせていただきます。

まず、33ページをお願いいたします。

こちらに1番に初めに、2番、答申事項について、水道料金の設定は受益者負担の原則により公平な負担を求めるものでなければならず、かつ中長期的に健全経営ができるよう経営基盤が安定する収入を確保できる適正な水準を確保すべきと記載しております。

答申事項の(1)、こちらが水道料金の現状でございます。

34ページをお願いいたします。

(2)水道料金の改定なんですが、令和4年度末の資金残高が約27億6,000万円、またこれまでの建設投資に伴い発行してきた企業債の残高が約6億2,400万円と年々減少しており、経営的には健全な状態を維持してきたと評価できます。

また、現行の水道料金水準を継続し、一定の建設投資を計上した財政見通しでは、年間で約3,400万円から7,400万円の利益が見込まれており、その結果として資金残高が増加傾向となり、健全な事業経営を維持できる状況でございます。

さらに、現行料金から料金水準を3.2%値下げしたシミュレーションにおいても、おおむね5年程度は資金残高が横ばいで推移する見通しでございます。この3.2%の根拠といたしましては、資金残高が今後5年間で約1億3,100万円増と見込んでおります。その1億3,100万円を5年で割りますと年間で2,620万円、こちらを令和4年度の給水収益8億900万円で割った数字でございます。

料金を値下げをしても水道事業経営に過度な負担を発生することなく、また昨今の物価上昇により負担が増加する市民への負担軽減の観点から、妥当なものとして評価されております。

(3)水道料金の設定でございます。

水道料金の改定においても、水道使用者にとって公平な単価設定が不可欠でございます。一方で、近年のコロナ禍により、景気の低迷、物価上昇など市民生活に大きな負担が生じていることも事実であり、中でも小口需要者の負担増加は明らかであり、一定の配慮が改定には必要であると。

これに伴いまして、料金改定の案は、全ての水道使用者に対して基本料金を消費税抜きで100円値下げをし、小口需要者となるメーター口径の13ミリ、20ミリの使用者に対しては、さらに税抜き26円の基本料金を値下げするものであり、前述した公平な負担、小口需要者負担軽減を配慮とした合理的な改定案と評価されております。

続いて、35ページをお願いいたします。

### 3、水道事業の健全経営について。

今回の改定により、水道料金の適正化によって水道使用者への負担軽減を行いますが、水道事業の健全な経営を継続することは不可欠でございます。これに伴いまして、今後も水道事業の健全経営に当たり、(1)計画策定、経営状況等についての見直し、それから(2)水道事業におけるコスト削減、(3)料金水準の見直しなど、経営に当たって今後も配慮されたいという意見を付しております。

36ページが水道料金表で、現行料金と改定後の料金を記載しております。

今後、審議会の答申に基づき、3月議会上程に向けて現在準備を進めている状況でございます。

以上で説明を終わります。

○委員長（金谷文則君） ありがとうございます。取りあえずそこまでですかね。

それでは、建設事業部の説明を終わりましたので、それについての質疑がございましたらお願いします。

○委員（治徳義明君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 治徳委員。

○委員（治徳義明君） 水道料金について確認をさせてください。

ただいま御説明いただいたんで、基本料金126円という値下げの検討ということですけども、いろいろ数字を言われたんじゃないけど、総額の計画ではどのくらいになってるんですか。

○委員長（金谷文則君） 答弁を求めます。

○上下水道課長（金島正樹君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 金島上下水道課長。

○上下水道課長（金島正樹君） 総額の金額。

○委員（治徳義明君） 要は赤磐市全域で126円下げたら、どの程度の金額になるかです。説明されたんかもしれんけど、ごめんなさい、数字が並んだもんで、よく分からない。

○上下水道課長（金島正樹君） 委員。

○委員長（金谷文則君） 金島上下水道課長。

○上下水道課長（金島正樹君） 総額で年間で2,620万円です。

○委員（治徳義明君） 2,620万円。

○上下水道課長（金島正樹君） はい、5年で1億3,100万円です。

以上です。

○委員長（金谷文則君） よろしいか。

○委員（治徳義明君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 治徳委員。

○委員（治徳義明君） ありがとうございます。2,620万円減になるということなんですけども、今の全国的にも水道管の老朽化とか耐震化とかというのが大きな課題になってるんだらうと思うんですけども、そのあたりを考慮しての減額なんですか。その確認をさせてください。

○委員長（金谷文則君） 答弁を求めます。

○上下水道課長（金島正樹君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 金島上下水道課長。

○上下水道課長（金島正樹君） 水道管の老朽化、耐震化についてのことだと思います。

今回の財政収支見通しにおきましても、一定の建設投資額は計上しております。その上で、これだけの、先ほど言いました年間で2,620万円の資金等が確保できます。老朽化等の対策においては、最小限の更新、それから事後保全、修繕等によって今後も対応していきたいと考えております。

以上です。

○委員長（金谷文則君） よろしいでしょうか。

他にございませんでしょうか。

佐藤委員。

○委員（佐藤武文君） 26ページの関係で、株式会社エイト日本技術開発中国支社、どういう会社かちょっと説明をいただきたいのと、既得権を取られてこの会社が今後新しい土地利用計画の事業について全てこの会社が携わって取られるのではないかなど。入札をやられてこの結果なっておられるのかどうか、その辺もですね含めて御説明いただきたいと思います。

○委員長（金谷文則君） 答弁を求めます。

○地域整備推進室長（森本祐司君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 森本地域整備推進室長。

○地域整備推進室長（森本祐司君） 26ページのエイト日本技術開発株式会社についての御質問についてお答えさせていただきます。

こちらの会社につきましては、設計、工事等を行っております会社でございます。都市計

画の関係についても実績を保有している会社でございます。

近年、上段の業務につきましても、エイト日本技術開発中国支社のほうが受けておりますけれども、この都市計画に絡む業務につきましては、公募型のプロポーザルで実施をしております、広く公募させていただいた結果、こちらの会社が手を上げられて受託をしている状況でございます。あえてこの会社に1者で随契というような形ではしておりませんので、総合的な評価の上でこちらの会社に決まっております。

以上でございます。

○委員長（金谷文則君） よろしいでしょうか。

佐藤委員。

○委員（佐藤武文君） よく分からないんですが、プロポーザルでやられたということは、このエイト日本技術開発中国支社だけではなかったと思うんです。この業者がよいということの中でプロポーザルで業者決定をされたんだろうと思うんですけど、何か既得権を取られて、この業者にお願いをしておるんだろうというふうに思うんですけど、そういうような既得権があったんかないんか。恐らくないとは思うんですけど。

それからもう一つ、中国支社と書いておられるのは、岡山に本社か支社か何かそういうものがあるんですかね。そのことについても御説明いただきたいと思います。

○委員長（金谷文則君） 答弁を求めます。

○建設事業部長（高橋 渉君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 高橋建設事業部長。

○建設事業部長（高橋 渉君） エイト日本技術開発ですが、中国支社ということで書いてあるんですが、自分の認識では岡山のほうに本社（後刻訂正）も構えてて、本社と支社機能が一緒になっているというふうに認識しております。

それから、既得権云々、確かにここに3つの業務のほうを連続で取られておりますので、随分重なってるというところではありますが、道の駅については基本計画を、一番ベースをつくっていただきました。それで、御承知のように今道の駅のアンケートをしたり具体の姿をとるところでこの次の業務が動いてますが、これについてはエイトではなく別のコンサルさんのほうが同じくプロポーザルでというところでは今やっておりますので、必ずしももうエイト、エイトでいくということではなくて、その都度一番いいところを選定してきていると、その結果がここでは3つ並んだというふうに思っております。

以上です。

○委員長（金谷文則君） よろしいでしょうか。

他にございませんか。

○副委員長（福木京子君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 福木副委員長。

○副委員長（福木京子君） 治徳委員が言われた水道の関係で、物価の高騰の中でやはり市民は求めていると思いますので、これはいいと思うんですが、心配は治徳委員も言われた老朽化と耐震化の関係なんですが、2月1日の山陽新聞にも載ってましたように、能登半島の地震のところで、結局耐震化が岡山は25.6%という。下からワースト2位という状況もあって、これは、国、県の予算がつかないとなかなかいかないと思うんですが、その辺がやっぱりそういうことで一番心配なんですけど、赤磐の場合、修繕は最小限でやるんだけど、耐震化の辺はどうなってるんでしょうか。

それから、あと老朽化なんですけど、昔の管、ビニールか何か昔の管が残ってるところがまだあるのかどうか。その辺の実態はどうなんでしょうか。

○委員長（金谷文則君） 答弁を求めます。

○上下水道課長（金島正樹君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 金島上下水道課長。

○上下水道課長（金島正樹君） 福木委員の御質問にお答えします。

まず、耐震化についてでございます。

水道管の耐震化率については、令和元年度現在で3.7%、それから配水池等においても25%程度でございます。主に水道管路におきましては、現在更新時に、下水道工事なんかの支障移転なんかのときに合わせて耐震管を布設している状況でございます。

それから、配水池等もでございます。今耐震診断等を順次実施しておりまして、昭和46年に築造されてかなり古いものになるんですけど、山陽配水池においても、プレストレストコンクリート造のものでありますが、耐震診断の基準を満たしております。

ほかのまだまだ未調査の施設がたくさんありますが、このように40年、50年の年数がたつものも多くございますが、強い構造となっており、そのほかの施設も安定していると考えております。

それから、老朽化についてでございます。

福木委員言われるように、塩ビ管等の管はまだたくさんございます。そちらのほうも耐用年数等は過ぎておりますが、それはあくまでも償却期間の年数でございますので、できるだけ長くもたせて、管のほうを使っていきたいと考えております。

ですから、漏水地域が多いようなところについては、最小限の更新、それから先ほども治徳委員のほうで回答させていただきました事後保全にはなりますが、修繕等で今後も対応していきたいと考えております。

以上です。

○副委員長（福木京子君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 福木副委員長。

○副委員長（福木京子君） その塩ビ管もたくさんあるということなんですけど、やはりこれは

塩ビ管というのは、もう前のときに行っている分ですから多分老朽化が進んできていると思うんですけど、その辺を長期的に見ても計画的に替えていくような計画が必要なんじゃないかなと。市民の中からもそういう声もあったもんで、今聞いているところなんですけど、その点いかがですか。

○委員長（金谷文則君） 答弁を求めます。

○上下水道課長（金島正樹君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 金島上下水道課長。

○上下水道課長（金島正樹君） 塩ビ管について、古いものはグレーの一般的によく見る管もごさいます。それから、以前から改良しているものは、それよりちょっと強度が強いもので塩ビ管もごさいます。そういったことで、まずは福木委員も言われるように古いような昔からある管については、試掘なりをしまして状況をよく確認して、最小限で対応していきたいと考えております。

以上です。

○委員長（金谷文則君） よろしいでしょうか。

福木副委員長。

○副委員長（福木京子君） そのあたりはやっぱり実態を調べるというのが、試掘して調べることになるんですけど、その辺はそれでも統計的にもそういうものが残ってるんじゃないかと思うんですけど、その辺はやはり計画的に予算をつけて新しいのにしていけないんじゃないかなと思います。

それともう一つ、耐震化の関係で令和元年が3.7%で、配水が25%ということなんですけど、この辺は実態としてどんなんでしょうか。岡山県が割と低いから、市町村も低いとは思いますが、その辺の見通しどんなんですか。

○委員長（金谷文則君） 評価ですか。

○副委員長（福木京子君） 評価ですね、はい。

○委員長（金谷文則君） よろしいでしょうか。答弁願います。

○上下水道課長（金島正樹君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 金島上下水道課長。

○上下水道課長（金島正樹君） 耐震化率についての御質問かと思えます。

先ほど委員おっしゃるとおり岡山県が低い状況で、赤磐市においても低い状況でございませう。そういったことで、今後、そういった地震等で御心配な声がたくさんあるかと思えます。市のほうにおいても、耐震診断、施設、配水池等においては、順次耐震診断調査、診断をしていって、必要であれば耐震診断等をやりたいと考えております。補強工事を。

○委員長（金谷文則君） よろしいですか。

○副委員長（福木京子君） はい、分かりました。

○委員長（金谷文則君） どうしましょう。トイレ休憩が必要でしょうか。よろしいですか。もうこのままいきたいと。もしトイレだったら、どうぞ言ってくださいね。

私、1つ、質問。

〔委員長交代〕

○副委員長（福木京子君） 委員長交代します。

金谷委員長。

○委員長（金谷文則君） 上下水道課長のほうにお伺いをしたいんですが、提言を受けてこういうふうに変更をすると。100円と26円何がしというのが出てくるわけですけど、災害のことで言われて、これは1月1日に起きた地震より前にまとめられたものだろうと思うので、水道に関して少しでも資金があるんなら、それは置いといていざというときに使わなきゃいけないんじゃないかなというように思うことが1つと、それから今、100円一律で皆答申としては値下げをするということになってるんですが、困っておられる、企業もたくさん使われるから困っとられるんかもしれないけども、一番今の物価的に大変な御苦勞をされてるのは、13ミリとか20ミリの水道管を利用されてる一般の方だと思うんで、そこを200円なら200円に変えて、企業の方はもう少し様子を見るとかというような考慮の仕方っていうのはできないんでしょうか。一律に企業まで100円する必要はないんじゃないかな。企業は一所懸命、確かに安いのにこしたことはないかもしれませんが、企業努力でもうけていただいてやっていく。企業誘致をするために水道料金を下げるというんなら、またこれは一つの施策として必要なことだろうと思うんですけど、現状ということで考えたときには、現状の今困っておられる市民の方の水道料金を値下げする。100円じゃなくても200円でも300円でもいいのかと思います。

それから、もう一つは岡山市は水道料金を今回値上げをするということになると思います。岡山市が値上げする、赤磐市は値下げする。これで均衡が取れるということになるのかもしれないんですけど、そこの評価はどういうふうにお考えになってるのか、お尋ねをしたいと思います。

○副委員長（福木京子君） 金島上下水道課長。

○上下水道課長（金島正樹君） まず一律で100円値下げして、小口需要者の方にさらに上乘せをする件で、そちらについては、当然審議会でもそういった御意見も出ております。あくまでも、今回は皆さんコロナ禍の状況が明けた中、資材等の物価の高騰、エネルギーの高騰などによって、様々な方が困られている状況でございます。

その上で、特に先ほど委員長が言われておりましたとおり、一般市民の方、13ミリ、20ミリを使う方がさらに困られている状況ということで、今回この案を審議会のほうから答申としていただいております。

それから、岡山市が値上げしたことについてなんですけど、岡山市においては、このたびは大きな浄水場に関わる設備機器、機械設備といったものを大きく更新をしていかないといけない

ということで、費用がかなりかかるという状況ということを経験として聞いております。そういったことで、岡山市においては今まで料金水準が低かったんですが、このたび上げて、健全な経営を維持していかないといけないということで判断されていたんだと思います。

以上です。

○副委員長（福木京子君） いいですか。

金谷委員長。

○委員長（金谷文則君） 岡山市もそのようには聞いておるんですけども、水道料金を値上げをしているところもあるという現実があるわけで、それも考慮するべきかなとは思いますが、もう一つは、先ほど私が申し上げた一般の方の水道料金をもう少し下げてもいいんじゃないかっていうことについての検討は、答申を受けたら答申はそのまま答申をいじることはなく、そのままやるんですか。やらなきゃいけないんでしょうか。市として、それに自分たちの考えを入れて、市民が困っておられるのであればもう100円でも安くしようというような考慮はできないものなんですか。できなければできないで結構です。それをお答えいただいたらと思います。

○副委員長（福木京子君） 答弁をお願いします。

金島課長。

○上下水道課長（金島正樹君） 委員長の御質問にお答えします。

答申をいただいたということで、これはあくまでも審議会からの答申、意見としていただいております。市としてもその辺、この答申を基に協議なりを行いまして、今回の答申内容に基づいて料金改定をしていくという方針でございます。

以上です。

○委員長（金谷文則君） はい、ありがとうございました。

○副委員長（福木京子君） よろしいですか。

○委員長（金谷文則君） はい。

○副委員長（福木京子君） それじゃ、委員長を交代します。

〔委員長交代〕

○委員長（金谷文則君） じゃ、こちらでやらせていただきたいと思います。

続いていきたいと思っておりますので、よろしく御協力のほどお願いをしたいと思います。

他に質疑はございませんでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（金谷文則君） ないようでございますので、これで建設事業部の質疑については終了したいと思います。進捗状況は以上ということでございます。

次に、協議事項の2番目、その他に入りたいと思います。

その他につきまして、産業振興部、建設事業部、説明のほうを続いて一遍にでいいですか。

じゃあ、説明は一遍にさせていただいて、質疑のほうをそれぞれでやっていくという形で進めさせていただきたいと思いますので、よろしく願いをします。

それでは、産業振興部からお願いをいたします。

○農林課長（岡田浩司君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 岡田農林課長。

○農林課長（岡田浩司君） それでは、資料2ページを御覧ください。

2、その他、(1)3月議会提出予定議案について、①赤磐市青年の家条例を廃止する条例について、資料11ページを御覧ください。

○委員長（金谷文則君） 保田委員から連絡があつて、今日は欠席ということで連絡が今届きましたので、皆さんに御報告をしておきます。

それでは、続いてお願いできますか。

○農林課長（岡田浩司君） 資料11ページを御覧ください。

こちらの熊山青年の家は、旧可真小学校跡地に位置し、赤磐市の中山間地域の農業、農村の活性化を図るため、次代の地域を担う青年の活動及び定住促進活動の拠点として、また青年が集まり、語り合える場づくりを行うことを目的とし、平成10年3月に設置されました。

主に熊山地域の農業後継者クラブが勉強会の会場として利用され、周辺の維持管理も行っておりました。農業後継者クラブが解散してからは利用が低迷しており、老朽化したため、当該施設の条例を廃止し、閉鎖するものです。

続きまして、④令和5年度赤磐市一般会計補正予算（第7号）について、資料14ページを御覧ください。

特定目的基金の森林環境譲与税基金積立金ですが、下から2行目にあります一般管理費、林業総務費の森林経営管理支援業務、森林経営管理事業支援業務委託料の残額として402万7,000円を基金に積み立てるものです。

次に、6款1項3目一般管理費、農業振興費では、ブドウ生産団地計画の検討業務の執行残、就農等支援センター関連業務について、決算見込みにより減額しております。

農業振興地域整備事業では、農振地域整備計画見直し業務として図面データの修正を行った残りを減額しております。

農業経営・生産対策事業では、農地利活用事業や産地生産基盤パワーアップ事業で、園芸施設の資材補助について決算見込みによる減額、農地利用効率化等支援交付金につきましては、6月補正により予算化され、農業機械を導入し経営改善に取り組む経営体を支援するものですが、一部において本年度中に農業機械の部品調達が間に合わず納入できないものがあるため、対象から除外し減額するものです。

地域おこし協力隊事業では、就農支援者がスムーズに地元に参加できるよう、地域おこし協力隊を利用した就農、経営モデルを作成し、地元との調整を行い現在募集している状況です

が、候補者の申請から決定までの期間を考慮し減額としております。

次に、6款2項1目一般管理費、林業総務費では、先ほど特定目的基金で御説明させていただいたとおりでございます。有害鳥獣駆除事業では、10月から12月までの捕獲頭数が想定以上となり、有害鳥獣捕獲補助金が不足したため増額させていただくものです。

⑤令和6年度赤磐市一般会計予算について、資料15ページを御覧ください。

農林課関係の一般会計予算で実施予定の主な事業について掲載しております。

農業振興地域整備事業では、整備計画の一般管理を行う必要経費を計上しております。本年度においては、整備計画見直し業務がありませんので、前年度比87%の減としております。

農作物鳥獣被害防止対策事業では、農作物の被害低減のための防護柵設置補助金等を扱う鳥獣被害防止対策協議会への補助金等を計上しております。

集落連携事業について、地元要望がなかったため、前年度比8%の減としております。

農地集積促進事業は、農地中間管理機構を通じての農地集積でございます。農地の貸手などへの交付金でございます。過年度実績により、前年度比約30%の減としております。

日本型直接支払い事業は、農地、農村の保全を図るための事業でございますが、多面的機能支払い中山間地域等直接支払いの交付金等で、事業実績等を基に計上し、前年度比約1.4%の増としております。

農業経営・生産対策事業は、農産物の生産拡大や品質向上を図るための事業でございます。施設や農業用機械等の導入に対する補助金で、生産部会の事業要望を基に計上しております。前年度比約39%の増としております。

施設管理運営費は、維持管理費、修繕料を計上しております。本年度においては、大規模な施設維持管理工事を計画しておりませんので、前年度比約66%の減としております。

地域おこし協力隊事業は、地域おこしの隊員の活動により地域の活性化や産業振興を図るための事業でございます。新たに募集する隊員1名の活動に要する経費を計上し、前年度比約50%の減としております。

有害鳥獣駆除事業は、防護柵の設置と併せて、農作物の被害低減を目的とした事業でございますが、有害鳥獣の捕獲活動や新規狩猟免許取得支援のための補助金等、過去3年間の事業実績を基に計上し、前年度比約8%の減としております。

松くい虫等防除事業は、森林資源保護と森林機能の発揮を図るために、薬剤の空中散布や伐倒等、松くい虫の計画的な駆除の実施により、その蔓延を防止するものでございます。空中散布におきましては、燃料費、薬剤の価格、それぞれ高騰しており、ナラ枯れ対策におきましては、対象木の増加により前年度比約26%の増としております。

続きまして、⑦令和6年度赤磐市財産区特別会計予算について、資料16ページを御覧ください。令和5年度では山方財産区におきまして分収造林事業がありましたが、令和6年度につきましては分収造林事業等の大きな事業の計画はございません。その他につきましても、ほぼ例

年どおりの予算となっております。

続きまして、(3)収入保険に関する保険料等助成措置に対する感謝状贈呈式についてでございます。

令和6年1月22日に、収入保険に関する保険料助成措置について、同制度の加入促進への貢献が認められ、全国農業共済組合連合会より感謝状をいただいております。

また、収入保険の2月2日現在の加入状況ですが、加入戸数97戸、前年度から21戸が増加し、補助金の見込額につきましては209万9,000円となっておりますので、御報告いたします。

続きまして、(4)令和5年度東備地域農業者の集いについて。

令和6年1月30日に、赤磐市桜が丘いきいき交流センターにおいて、約200名の東備地域の農業関係者が一堂に会し、赤磐市の認定新規農業者3名への激励や瀬戸南高校の生徒による活動事例発表等、持続可能な農業を推進することを目的に開催されました。

続きまして、(5)赤磐市農業委員会委員任命式について。

令和6年2月1日に、農業委員会委員19名の任命式が執り行われました。任期につきましては、令和6年3月7日から令和9年3月6日までの3年となっております。

続きまして、(6)赤磐市農林業就業奨励金の贈呈についてでございます。

この奨励金は、地域農業の中核的な担い手として活躍が期待される39歳以下の新規就農者に贈られます。今回は、和田、馬屋、西中地区でそれぞれ就農されている3名の方に贈呈させていただきました。

以上、農林課からの御報告でございます。

○委員長（金谷文則君） ありがとうございます。

続いてお願いします。

○商工観光課長（大崎文裕君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 大崎商工観光課長。

○商工観光課長（大崎文裕君） それでは、2、その他につきまして商工観光課より御説明をいたします。

委員会の資料の2ページをお願いします。

2、その他、(1)3月議会提出予定議案について。

②赤磐市熊山英国庭園条例の一部を改正する条例につきましては、資料の12ページを御覧ください。

こちらに着色しております場所につきまして、黄色に着色した芝生広場以外のスペース、緑色に着色しましたガラスハウス、オレンジ色に着色したチケットハウス、それから青色に着色したカフェスペースの利用料金を制定するものでございます。

利用料金の設定できていない場所の利活用を行い、多様な形での施設利用者の増加、英国庭園を中心とした本市のPRに寄与することが見込まれることから、条例の改正の上程を予定を

しております。

次に、2ページに戻っていただきまして、③赤磐市総合交流促進施設条例を廃止する条例につきましては、平成27年度以降利活用のなかったリピート吉井の条例廃止でございます。

資料の13ページを御覧ください。

これまでの経緯を記載しております。条例制定のままであれば、宿泊施設、レストランの用途に限られることから、条例を廃止しまして、利活用の幅を広げることを可能としていくため、条例の廃止を行いたいというふうに考えております。

2ページに戻っていただきまして、⑤令和6年度赤磐市一般会計予算につきましては、資料17ページをお願いいたします。

7款1項2目商工振興費、企業誘致関連事業では、企業誘致の推進、市内工業団地の維持管理に関する経費を計上しております。大きな新規事業はございませんが、企業誘致奨励金におきまして、新規の工場などの建設がございました。令和6年度から、新たに対象となる企業が2件ありますことから、前年比26%の増となっております。

次に、商工振興対策事業につきましては、中小企業者の経営支援、企業活動に対する補助などの経費を計上しております。こちらにつきましても大きな新規事業はございません。前年比4%の減となっております。

次に、7款1項3目観光費、施設維持管理事業では、市内観光施設などの維持管理に関する経費を計上しております。令和6年度には、竜天オートキャンプ場シャワーブース等の改修工事を予定しておりますことから、前年比約34%の増となっております。

次に、観光振興対策事業については、イベントや観光PRなどの観光振興事業のための経費を計上しております。コロナ以前と比べ、来場者の趣向や人流の変化や物価高、人件費高騰などによる経費の増加があったことから、今年度開催時期やイベントの統廃合など、市民のニーズに沿った新しい形のイベントの検討が必要であることから、令和6年度については、花火大会、あかいわ祭り、是里ワインフェスト、各実行委員会への補助金を計上しておりません。こういったことから、前年比43%の減となっております。

次に、地域おこし協力隊事業につきましては、地域おこしの隊員の活動により地域の活性化や産業振興を図るための事業でございます。隊員の報酬や活動に関わる経費を計上しており、2名分を計上しております。

なお、隊員1名が令和6年7月末で委嘱期間が満了しまして、赤磐市で起業を計画していることから、支援補助金分の約10%の増加となっております。

続きまして、竜天オートキャンプ場特別会計につきましては、資料の18ページをお願いいたします。

竜天オートキャンプ場の維持管理、運営に係る経費を計上しております。令和5年度の実績を勘案して予算計上しており、前年比5%の増となっております。

続きまして、2ページに戻っていただきまして、(2)赤磐市宿泊施設誘致奨励金交付規則の制定につきましては、現在赤磐市には民間事業者が経営する大きな宿泊施設がございません。宿泊者は近隣の市町村へ宿泊するため、赤磐市への滞在時間が短くなっている状況です。宿泊施設の誘致を促進し、商工振興、観光振興など市内経済活動の活性化が期待されることから制定するものでございます。

資料の20ページから23ページに規則の各案を添付しておりますので、後ほど御確認いただけたらと思います。

以上で商工観光課からの説明を終わります。

○委員長（金谷文則君） ありがとうございます。

○建設課長（福圓章浩君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 福圓建設課長。

○建設課長（福圓章浩君） それでは、建設事業部からの説明をさせていただきます。

資料の24ページをお開きください。

2、その他、(1)3月議会提出予定議案について、建設課から説明させていただきます。

まず、③令和5年度赤磐市一般会計補正予算（第7号）につきまして、資料の37ページから39ページをお願いいたします。

それぞれ実績見込みや追加割当てによりまして、補正を別添37ページ、38ページのとおり予定しております。

39ページにつきましては、繰越しを予定しております地区の一覧で、関係機関との調整や協議などの理由で年度内完了が困難となり、次年度への繰越しを予定しております。

続きまして、④令和6年度赤磐市一般会計予算につきまして、資料の40ページから43ページをお願いいたします。

まず、40ページから説明をします。

6款1項5目農地費は、農道、水路、ため池など農業用施設の維持管理及び改良に係る経費となっております。令和6年度から下仁保地区の圃場整備事業が事業採択となりまして、事業が始まる関係で換地委託業務などの費用を見込んでおります。

6款2項2目林業振興費は、林道の維持管理及び開設に係る経費となっております。

続きまして、41ページ、8款2項2目道路維持費は、修繕、草刈り、剪定など市道の維持管理に係る経費となっております。令和6年度も引き続き通学路の安全施設整備、市道の舗装修繕、橋梁修繕などを見込んでおります。

続きまして8款2項3目道路新設改良費は、市道の改良及び新設に係る経費となっております。新拠点事業に関連する道路整備の詳細設計業務などを見込んでおります。

続きまして、8款3項1目河川総務費は、排水樋門や排水機場の維持管理に係る経費となっております。

8款4項1目都市計画総務費は、建築物の耐震診断、計画及び空き家対策事業に係る経費となっております。昨年度に引き続き、大規模盛土調査業務などを見込んでおります。

8款4項2目公園費は、公園の維持管理に係る経費です。

42ページに移っていただきまして、8款6項1目住宅管理費は、市営住宅の維持管理に係る経費となっております。令和6年度は、上市団地1棟の解体工事の請負工事費を見込んでおります。

続きまして、⑤令和6年度赤磐市宅地等開発事業特別会計予算につきまして、資料の44ページをお願いいたします。

これは分譲宅地の販売促進及び維持管理に係る経費となっております。

続きまして、資料24ページに戻っていただきまして、⑧地方自治法第180条の規定による市長の専決処分報告についてとなります。

以前報告しております令和5年10月20日に発生した物損事故につきまして、令和5年12月8日付で示談が成立し、専決処分しておりますので、報告する予定としております。被害総額は4万4,000円、市の過失が10割で、4万4,000円の補償をしており、全額を保険で対応しております。

以上で建設課のその他についての説明を終わります。

○委員長（金谷文則君） 続いてお願いします。

○上下水道課長（金島正樹君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 金島上下水道課長。

○上下水道課長（金島正樹君） 同じく建設事業部資料24ページをお願いします。

上下水道課から、(1)3月議会提出予定議案といたしまして、①赤磐市水道条例の一部を改正する条例についてです。こちらは先ほど事業の進捗状況で説明しました水道料金の改定に伴い条例の一部改正するものでございます。

続きまして、②水道法改正に伴う関係条例の整理に関する条例についてです。

こちらは、令和6年4月1日より国の水道事業の所管が厚生労働省から国土交通省及び環境省への変更に伴い、下記の条例の一部改正するものでございます。

続きまして、④令和6年度赤磐市一般会計予算についてです。

資料43ページをお願いします。

上下水道課所管事業としまして、上から4款2項1目清掃総務費については、浄化槽設置事業補助金を計上しております。

同じく4款3項1目上水道施設費については、各事業の負担金、水道事業への繰出金などを計上しております。

続いて、6款1項5目農地費では、農業集落排水事業に係る繰出金、続いて8款5項1目下水道整備費では、公共下水道事業に係る繰出金を計上しております。

資料24ページに戻っていただきまして、⑥令和6年度赤磐市水道事業会計予算について、資料は45ページをお願いいたします。

まず、上段の収益的収入及び支出において、水道事業収益は11億4,895万7,000円を予定しており、主なものとしまして水道料金、他会計負担金、補助金などでございます。

水道事業費用としまして11億4,895万7,000円を予定しておりまして、主なものとしまして、原水、浄水及び配水に関わる費用や支払い利息等を予定しております。

続いて、下段の資本的収入及び支出において、資本的収入は1億9,129万7,000円を予定しておりまして、主なものとしまして工事に関わる負担金や他会計からの補助金などでございます。

資本的支出については、5億6,307万円予定しておりまして、主なものとしまして、下水道整備に関わる配水管移設工事費や、新拠点事業等に関わる測量設計費、企業債の償還などでございます。

続いて、資料46ページをお願いいたします。

こちらが⑦令和6年度赤磐市下水道事業会計予算でございます。

収益的収入及び支出のうち、収入では下水道事業収益17億2,939万4,000円を見込んでおりまして、主なものは下水道使用料、農業集落排水使用料、他会計負担金、補助金などでございます。

下水道事業費用は17億2,939万4,000円を見込んでおりまして、主なものは、管渠やポンプ場、処理場の運営経費や支払い利息などでございます。

下段の資本的収入及び支出のうち収入については、資本的収入10億2,626万2,000円としており、主なものは企業債や国庫補助金、他会計負担金などでございます。

資本的支出については14億9,263万1,000円を予定しており、穂崎地区、尾谷地区、西中地区などの汚水管渠整備費や、新拠点事業等に関わる測量設計費、企業債の償還金などでございます。

資料25ページに戻っていただきまして、(2)次年度への繰越予定といたしまして、こちらは先ほど事業の進捗状況でも説明しましたが、水道事業会計、下水道事業会計ともに工事間の調整や適正工期の確保などにより、繰越しを予定しております。

上下水道課からは以上です。

○委員長（金谷文則君） ありがとうございます。

じゃあ、続いてお願いします。

○地域整備推進室長（森本祐司君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 森本地域整備推進室長。

○地域整備推進室長（森本祐司君） 続きまして、地域整備推進室から、資料24ページの(1)3月議会提出予定議案について説明をさせていただきます。

資料の38ページをお願いいたします。

③の令和5年度赤磐市一般会計補正予算につきましては、地域整備推進室所管事業におきまして実績見込みにより減額を1件予定しております。

次に、④令和6年度赤磐市一般会計予算につきましては、資料の43ページをお願いいたします。

一番下の欄、地域整備推進室所管事業としまして、立地適正化計画の改定に伴う経費など124万2,000円を計上する予定としております。

○総合政策部参与兼建設事業部参与（岡本和典君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 岡本建設事業部参与。

○総合政策部参与兼建設事業部参与（岡本和典君） 資料の25ページをお願いします。

(3)番の赤磐市道の駅あかいわ（仮称）に関する基本協定についてでございます。

資料は一番最後の47ページを御覧ください。

この47ページの公共ゾーンのイメージ図につきましては、従前、特別委員会等で御報告させていただいてる図面でございます。このたび、これは県道に面している道の駅ということでございますので、岡山県がこの整備の一部を負担していただけるということで、青色の点線で囲んでいる部分が岡山県の負担区域ということで、このたび赤磐市と岡山県でこの費用負担でありますとか事業区分につきましては協定を近く結ばせていただきたいということで調整をさせていただいてるところでございます。

報告は以上です。

○委員長（金谷文則君） ありがとうございます。説明は以上ということですね。

それでは、時間押してるんで急いでいきたいと思いますが、まず産業振興部のほう、説明に対しての質疑を受けたいと思います。質疑ございませんか。

よろしいですか。

14ページのところの特定目的基金の一般財源が402万7,000円になっとなって、一番下の林業総務費かな、そこんところのやつが402万6,000円なんだけど、この0.1の違いというのは何かあるんかな。

○農林課長（岡田浩司君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 岡田農林課長。

○農林課長（岡田浩司君） こちらは、この残額が402万6,800円になってますので、その端数分で、歳出は切るし、歳入のほうは上げるということでその差でございます。

○委員長（金谷文則君） はい、分かりました。

よろしいでしょうか、皆さん。

○副委員長（福木京子君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 福木副委員長。

○副委員長（福木京子君） イベントなんかの関係はどこで。

○委員長（金谷文則君） 聞いてください。

○副委員長（福木京子君） 今年はだからイベント関係はもう全部削減した。43%の予算が減ということなんですけど、昨年いろいろありまして大分議論した点なんですけど、これはそれぞれの実行委員会で十分議論された中で、今年度はもう一応予算をつけまいというふうになったのか、その辺の説明をお願いしたいと思います。

○委員長（金谷文則君） 答弁を求めます。

○商工観光課長（大崎文裕君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 大崎商工観光課長。

○商工観光課長（大崎文裕君） 令和6年度の予算の関係です。花火大会、それからあかいわ祭り、それからワインフェストなど、ワインフェストにつきましてはまだ実行委員会が開けていないんですが、そのほか2つの花火大会、あかいわ祭りの実行委員会におきましては、議論をさせていただいております。それから、ワインフェストにつきましては、実行委員長等と調整を図っておるところでございます。

以上です。

○委員長（金谷文則君） よろしいでしょうか。

○副委員長（福木京子君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 福木副委員長。

○副委員長（福木京子君） それは議論されたんですけど、その内容的な主な意見というんか、今年度はもう一応ゼロ円にしよう。上げられてないから。どのような話になって、極端ですよね、全部3つやめるということが。その辺が、もう少し納得できるように説明願いたいと思います。

○委員長（金谷文則君） 答弁を求めます。

○商工観光課長（大崎文裕君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 大崎商工観光課長。

○商工観光課長（大崎文裕君） それぞれのイベントをやめてしまうというわけではございません。令和6年度につきましては、予算計上できていないというようなところでございます。

イベント内容につきまして、マンネリ化というような問題であったり、それからコロナ後の趣向の変化であったり、それから時期でありますとか時間でありますとか、場所、自主財源を増やす方法など、継続できる方法はないかというようなことまで議論をさせていただいております。そういった関係で、来年度1年をかけて継続して審議をしていこうというようなところでございます。

以上です。

○委員長（金谷文則君） よろしいでしょうか。

他にはございませんでしょうか。

佐藤委員、よろしいですか。

○委員（佐藤武文君） よろしい。

○委員長（金谷文則君） 治徳委員、よろしいですか。

○委員（治徳義明君） はい。

○委員長（金谷文則君） それでは、産業振興部のほうは以上ということで、続いて建設事業部のほうについての質疑がございましたらお願いします。

○委員（治徳義明君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 治徳委員。

○委員（治徳義明君） 道の駅あかいわの基本協定の件で確認をさせてください。

イメージ図を提示していただいているんですけども、これ何度かイメージ図を提示していただいたんですけど、今回、フットサルの文言が削除されてます。これはあえて削除したんでしょうか。それともプリントミスなんか。

と申しますのが、当初、サッカー場のようなイメージ図が出たと思ったんですけども、いつの間にかフットサル場になっとなって、フットサルに対して批判も結構あって、そういった経緯で、今回文言を削除されてるのかな。深読みなんか。ただ単純に載せてないのか、その確認です。

○委員長（金谷文則君） 答弁をお願いします。

○総合政策部参与兼建設事業部参与（岡本和典君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 岡本建設事業部参与。

○総合政策部参与兼建設事業部参与（岡本和典君） このイメージ図は、先般お出したときから申し上げておりますが、仮に想定としていれているというものでございますので、御存じのとおり今アンケート調査等を実施しておりますので、このアンケート調査等を実施した後にここに盛り込んでいくもの。それが結果的にフットサル場になるのか、あるいはほかのものになるのかというのは、これからの検討でございますので、このイメージ図はあくまでたたき台のイメージということで。今回文字が消えたことに関しては、特に他意はございません。

以上です。

○委員長（金谷文則君） 治徳委員。

○委員（治徳義明君） フットサルだけが消えてるので、いろいろどうということなんかと思っただけで、今の御説明で分かりました。

○委員長（金谷文則君） よろしいね。

他にはございませんでしょうか。

○副委員長（福木京子君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 福木副委員長。

○副委員長（福木京子君） 今のこのイメージ図は、想定で入れているだけということですね。それで、アンケートを多分まちづくりのところでされるから、その後になってくるんですが、1つ心配なのは、調整池、今言ってるんですが調整池がこのぐらいなんですが、そもそもあの地域はそれこそ災害の関係で相当低いところで、皆市民の人はやっぱり心配なんです、これ。このぐらいの広さでいいのか、その辺を市民が納得できるような災害対策、これは早めにやらないと。ああいうところに何でこんな今の時点でするのかというのが1つありますので、その辺はどんなに考えられてるのかなと思います。

○委員長（金谷文則君） 答弁を求めます。

○総合政策部参与兼建設事業部参与（岡本和典君） 委員長、建設業部参与、岡本。

○委員長（金谷文則君） 岡本建設事業部参与。

○総合政策部参与兼建設事業部参与（岡本和典君） 今の調整池のことにつきましては、今後開発ということになってくると思いますので、そのときに必要な調整池の容量でありますとか、そういったことについては検討させていただく予定としております。

以上です。

○委員長（金谷文則君） よろしいでしょうか。

○副委員長（福木京子君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 福木副委員長。

○副委員長（福木京子君） その容量だけじゃなくて、あの地域を本当に災害がないようなところにしないといけない。その辺市民が納得できるような説明が今後早めに要ると思いますが、その辺はしていただけるのでしょうか。

○委員長（金谷文則君） 答弁を求めます。

○総合政策部参与兼建設事業部参与（岡本和典君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 岡本建設事業部参与。

○総合政策部参与兼建設事業部参与（岡本和典君） いわゆる浸水想定等もございますので、どのぐらい盛土をしないといけないとか、そういったことにつきましても併せて検討を早めにさせていただいて、検討の結果が出ましたら、それは都度、この特別委員会等で説明をさせていただきたいと考えております。

以上です。

○委員長（金谷文則君） よろしいでしょうか。

他にございませんでしょうか。よろしいですね。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（金谷文則君） ないようでございますので、以上で建設事業部関係の質疑を終了したいと思います。

それでは、その他のその他ということで、委員の皆様、また執行部のほうから何かございま

したら発言をお願いいたします。

○建設事業部長（高橋 渉君） 委員長。

○委員長（金谷文則君） 高橋建設事業部長。

○建設事業部長（高橋 渉君） 1点だけ訂正をさせてください。

先ほど佐藤委員に対する私の答弁で、エイト日本技術開発、本社が岡山市と申し上げましたけども、正確には本社東京、本店岡山市ということでしたので、おわびと訂正させていただきます。

○委員長（金谷文則君） はい、そのように訂正をさせていただきます。

他にございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（金谷文則君） ないですね。

じゃあ、以上で産業建設常任委員会を閉会としたいと思います。

大変御苦勞さまでございました。

午後0時3分 閉会